

2024年度 授業改善アンケート第4Q・後期・通年科目「教員コメント（学生に対するフィードバック）」

講義名	期間名	氏名	設問01
キャリア支援演習Ⅲ (M)	通年	石山 玄幸	キャリア支援演習Ⅲの講義が終了したということは、すでに就職活動が始まっている時期です。本講義で学んだことを活かして、より良い就職先を見つけることができることを祈念しています。
キャリア支援演習Ⅲ (D)	通年	北嶋 洋一	シラバスに関して) 流れは概ねシラバスに準じていたため、特に大きな支障も起こらず、次週に何が行われるのかは伝わっているものと考えている。話し方・進め方について) アンケートではないが、講師によって、話し方や進め方は様々なので、学生が聞きやすい速度や声の大きさなどについて、配慮を求めることが必要であると感じた。板書やPowerPoint・配布資料について) アンケートではないが、プリントの不足が度々あり、スライドショーの文字が小さすぎて見えないとの指摘も多かった。この点、改善を求めたい。理解度の確認について) 振り返りシートの内容で、理解度を把握していたが、概ね授業の主旨は理解されていたと思われる。しかし、理解の深度については、かなりの開きがあることも分かり、フィードバックの重要性を感じた。授業の満足度について) とても満足できたが54%。ある程度は満足していると思われるが、この授業で得た知識を就活で役立てよう希望したい。
キャリア支援演習Ⅲ (A)	通年	横山 哲也	企業の方の説明を増やしたいと思います。
保育実習指導Ⅰ	通年	湯浅・吉江	保育実習Ⅰに向けた事前指導、実習後の振り返り等を通した学修内容でした。全員が実習に向け、机上の学びと実践を結び付けられるよう2名の教員で協力して授業を実施しました。アンケート回答では全体的に「十分適切、適切」の評価をいただきました。今回の保育所、保育所以外の児童福祉施設実習を土台として次の実習に向けた準備が始まります。最後の実習経験を積んでこの職業の倫理性と役割について一緒に考えていきましょう。
保育実習指導Ⅱ	通年	吉江 幸子	保育実習Ⅱに向けた事前事後指導の授業においてシラバス説明の不十分さがあったことがアンケート回答でわかりました。保育実習Ⅰ(保育所)から保育実習Ⅱへの運動性を授業の中でしっかりと確認しながら進めたいと思います。ありがとうございます。
保育実習指導Ⅲ	通年	湯浅 頼佳	良い評価を頂きありがとうございます。今後も一層わかりやすく寄り添った授業を心掛けて参ります。
スクール・ワーク実習指導	通年	上原 正希	おむね理解をしていただいたのが良かったようなので、引き続き行っていき、評価の多少低い部分については、実践方法を変更しようと思います。コメントおよび評価ありがとうございました。
情報基礎演習Ⅱ (M-A)	後期	由水・薦田・佐藤雅	授業評価アンケートへのご回答、ありがとうございます。パワーポイントの使い方やプレゼンのスキルを学ぶことで、実践的な力が身についたことを願っています。発表の場で自信を持てるよう、今後も工夫を重ねていきます。ご意見を参考に、さらに分かりやすく、実践的な授業を目指します。
情報基礎演習Ⅱ (S)	後期	宮崎・薦田	授業評価アンケートへのご回答、ありがとうございます。パワーポイントの使い方やプレゼンのスキルを学ぶことで、実践的な力が身についたことを願っています。発表の場で自信を持てるよう、今後も工夫を重ねていきます。ご意見を参考に、さらに分かりやすく、実践的な授業を目指します。
情報基礎演習Ⅱ (D)	後期	薦田・佐藤雅	授業評価アンケートへのご回答、ありがとうございます。パワーポイントの使い方やプレゼンのスキルを学ぶことで、実践的な力が身についたことを願っています。発表の場で自信を持てるよう、今後も工夫を重ねていきます。ご意見を参考に、さらに分かりやすく、実践的な授業を目指します。
情報基礎演習Ⅱ (A)	後期	薦田・佐藤雅	授業評価アンケートへのご回答、ありがとうございます。パワーポイントの使い方やプレゼンのスキルを学ぶことで、実践的な力が身についたことを願っています。発表の場で自信を持てるよう、今後も工夫を重ねていきます。ご意見を参考に、さらに分かりやすく、実践的な授業を目指します。
情報基礎演習Ⅱ (M-B)	後期	由水・薦田・佐藤雅	授業評価アンケートへのご回答、ありがとうございます。パワーポイントの使い方やプレゼンのスキルを学ぶことで、実践的な力が身についたことを願っています。発表の場で自信を持てるよう、今後も工夫を重ねていきます。ご意見を参考に、さらに分かりやすく、実践的な授業を目指します。
情報基礎演習Ⅱ (M-C)	後期	由水・薦田・佐藤雅	授業評価アンケートへのご回答、ありがとうございます。パワーポイントの使い方やプレゼンのスキルを学ぶことで、実践的な力が身についたことを願っています。発表の場で自信を持てるよう、今後も工夫を重ねていきます。ご意見を参考に、さらに分かりやすく、実践的な授業を目指します。
データインスパイア	後期	薦田・近澤	授業評価アンケートへのご回答、ありがとうございます。実際のオープンデータを活用し、自分なりの視点で「日本一幸せな都道府県」を分析することで、データサイエンスの面白さを実感してもらえたなら嬉しいです。Excelを使った分析スキルは、今後さまざまな場面で役立つはずですが、いただいたご意見をもとに、さらに実践的で学びの深まる授業を目指します！
平面構成Ⅱ	後期	北嶋 洋一	シラバスに関して) 流れはシラバスに準じて進めたが、学生の作業速度が想定よりも時間を要したため修正が多かった。講評の時間を大幅に犠牲にしまったので、次年度のシラバスで改善を行った。話し方・進め方について) 進め方や話し方が早いとの指摘があったので留意したい。板書やPowerPoint・配布資料について) 授業時に提示したPowerPointはそのままTeamへUPしておいたが、スライドショーをそのままアップしたことで少々見辛いところがあったようである。理解度の確認について) 個別指導時に確認されたことだが、課題内容について理解不足を感じる人が複数人いた(特に留学生)。分かりやすく図解したつもりではいたが、さらなる工夫が必要ということ。授業の満足度について) とても満足できたが49%だが、アンケート回答率が83%だったので実質50%以下と思われる。まだまだ改善し更新する必要があるということであろう
デザインⅡ (A)	後期	西田 陽二	学生が大変熱心に興味を持ち授業に参加したので、近年まれにみる効果が上がったと思う。実技授業に適正な人数だったと思う。
デザインⅡ (B)	後期	西田 陽二	学生が大変熱心に興味を持ち授業に参加したので、近年まれにみる効果が上がったと思う。実技授業に適正な人数だったと思う。

デッサンⅣ	後期	西田 陽二	昨年度に比較すると教室の環境（気温・光等）が改善され、学生が実技に集中できる環境になった。学生にとって陰影法を理解する難しい課題（石膏デッサン）だったが、熱心に取り組み十分に効果が出たと思う。
スタートアップ 演習（M）（再）	後期	河田 一郎	「スタートアップ」の目的は自ら調べ、考える。そして自分のコメントをプレゼンすることができるようになることです。この授業はそのための初めの一歩です。「あまり触れていなかったニュースについて改めて知ることができてとても良かった」とコメントをいただきましたが、まず社会に目を向けるきっかけになってくれたようでよかったです。
キャリア支援演習Ⅰ（M）	後期	石山 玄幸	大学卒業後の就職は、長い人生において、とても重要なライフイベントの1つです。そのため、当該学年より、キャリア支援演習を必修講義としている経緯があります。本講義を契機に、日々の大学生活において、就職を意識することを期待しています。
キャリア支援演習Ⅰ（S）	後期	大島 康雄	快適な授業環境にするように今後の参考にしたいと思います。
キャリア支援演習Ⅰ（D）	後期	北嶋 洋一	シラバスに関して）流れは概ねシラバスに準じていたため、次週に何が行われるのかは伝わっているものと考えていたが、かなりの数の学生がシラバスを見ていない、もしくは忘れてしまっている実情は改善しなければならない。話し方・進め方について）講師によって、話し方や進め方は様々なので、学生が聞きやすい速度や声の大きさなどについて、配慮を求めることが必要であると感じた。板書やPowerPoint・配布資料について）アンケートではないが、プリントの不足が度々あり、スライドショーの文字が小さすぎて見えないとの指摘も多かった。この点、改善を求めたい。理解度の確認について）振り返りシートの内容で、理解度を把握していたが、概ね授業の主旨は理解されていたと思われる。しかし、理解の深度については、かなりの開きがあることも分かり、フィードバックの重要性を感じた。授業の満足度について）とても満足できたが36%。この低さの原因は、一部の授業にまともに取り組んでいない学生によるものと考えられる。授業中にゲームや私語を交わす学生が周囲の集中力を阻害している状況は、新年度に対策が必要である。
キャリア支援演習Ⅰ（A）	後期	横山 哲也	企業の方の説明を増やしたいと思います。
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	後期	畠山・西野	アンケートのご回答ありがとうございます。一部本科目内容ではない部分も見られますが、担当教員の認識を再度確認しながらブラッシュアップしていきたいと思っています。
精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	後期	畠山・西野	アンケートへのご回答ありがとうございます。実習指導は、実習前の準備と実習後の振り返りを個人・グループで行っていますが、それぞれ効果的に用いながら実践力を高めていくことができるよう、今後も進めていきたいと思っています。
特別支援教育実習(事後指導)	後期	木村・千葉	実習により全員が揃うことは少なかったが、全員の模擬授業と実習の成果報告を実施することができた。実習に行く前に、基本的な心構えや予備知識は指導したが、現場を経験すると、模擬授業に対する講評も鋭さを増し、実践による学びの大きさを実感している。実習期間がバラバラなため、授業づくりの講義が断片的になってしまった点は次年度の改善点としたい。
保育実践演習	後期	吉江 幸子	保育士養成課程の最後の必修科目でした、4年生のみなさん履修お疲れ様でした。学生の意見要望に沿って集中的に授業を組みました。アンケート項目も適切、十分適切な回答をいただきました。皆さんで「保育士の職業倫理や意義・目的」に関して意見をまとめる時間としては十分に確保できたと感じています。
立体構成Ⅱ	後期	梅田 力	今年度は学生の進捗を見ながら、少し課題の進行をずらし、柔軟に対応することで、履修者全員が制作を終えることが出来、ポートフォリオも全員提出してもらうことができた。授業中に何度も制作の日程を含め、シラバスを提示したのだが、1名シラバスをよく見ていないとの回答があった。次年度は日程を提示している際にスライドで見せているものが、シラバスであることをもっと明確に伝えるよう改善する。
イラストレーション基礎Ⅱ	後期	佐藤 正人	多くの学生達が満足いく授業として受け取ってもらえたのは良かったと思います。1年後期となり学生達のイラスト制作の取り組みも前期から成長が多く見られました。それぞれスキルが違うので個々に合わせたアドバイス指導はできたと思うが、全体講評が多くの人数、制作時間の為なかなか時間が取れなかったのが次年度からは時間配分に考慮して実施するよう心掛けたいです。更なる満足する授業を目指したいものです。
グラフィックデザインⅡ	後期	北嶋 洋一	シラバスに関して）シラバスの前半を修正し、前期グラフィックデザインⅠで要望のあったDTPの技術的な習得を加えたことは、評価していただけて良かった。話し方・進め方について）技術講習的な内容に関しては、詰め込み過ぎだったかもしれない。時間が限られた中での講義だったので、急ぎ過ぎた感があり反省している。板書やPowerPoint・配布資料について）PDFが殆どだったが、紙による配布物を求めている学生もあり、配慮の必要を感じた。理解度の確認について）後半の課題制作の際、前半で伝えたはずの技術やルールが約1/3の学生に完全に伝わってなかった。理解度云々ではなく、ルールの徹底が成されていなかったという点が反省される。授業の満足度について）とても満足できたが50%。モノ作りを主軸とする内容ではないので、手を動かしたい学生には不満足な内容だったと思われる。但し、ビジネスという観点で授業を動かす仕組みは今後も続けていく必要がある。
プロダクトデザインⅡ	後期	林 春生	時間配分、満足度に於いて、2%の学生が不満に感じていた。学生の進捗度を配慮しもっと満足できる授業にしていきます。理解度も12%の学生が不満に感じていて、驚きました。一人一人もっと深く対応をして、デザインの理解度を向上させます。
プロダクトデザインⅣ	後期	林 春生	全ての設問に、満足しているとなっておりますが、さらに工夫をして、デザイン発想力の強化、アイデア展開力、モックアップ作成の完成度が上げられるように改良致します。
漫画Ⅱ	後期	三上 いずみ	ストーリーを作る際に、生成AIを使って構成やエピソードを補強しました。これにより、話を起承転結にまとめやすくなり、早く制作を始めることができました。しかし、自分の能力や作業効率をうまく管理できず、作品を完成させられない学生もいました。締め切りを守ることや、無理のない内容で作品を仕上げることは、仕事をする上で重要な経験になったと思います。
ビジュアルデザインⅡ	後期	田中 靖之	2023年度の反省点からCIデザインのポイントを理解できるよう、応用デザインの展開例のプリント演習を実施しました。その結果、多くの学生が最終課題で「基本デザインのレベル」が向上したと考察します。

イラストレーションⅡ	後期	浩而 勉諭	アンケートに回答していただけて有り難く思っています。自由記述のコメント欄を読み、胸が熱くなりました。学生一人一人に寄り添い親身になり導いていくのが私の授業のスタイルです。それを理解してくれたり、受け入れてくれたり、さらに感謝してくれている学生がいることがわかりました。誠意が伝わったのだと思い、一生懸命に取り組んできた甲斐があったと思いました。今後も誠実に授業に臨む決意です。
イラストレーションⅣ	後期	佐藤 正人	多くの学生達が満足いく授業と受け取ってもらえたのは良かったと思います。最近イラスト課題でもデジタルイラストで制作する生徒も増えたのでアナログ、デジタルの両方に対応はしていますが、イラストスキルが上がるようなアドバイスも更に強化していきたいものです。課題でもそれぞれの生徒の個性、オリジナルを伸ばせるようこれからも考慮して取り組んでいきたいと思っています。
映像表現Ⅱ	後期	北嶋 洋一	シラバスに関して) シラバスの前半期間を修正し、技術習得の講習に時間を費やしたが、今後はアプリも含めて再考が必要と感じている。話し方・進め方について) 段取りの間違いが多く、反省している。後半の課題制作にあたっては、カレンダー作りをしなければならない。板書やPowerPoint・配布資料について) PDFが殆どだったが、紙による配布物を求めている学生もおり、配慮の必要を感じた。理解度の確認について) 課題制作に於ける講評内容については、もう少し深掘する必要があると感じているが、映像制作という分野が学生の中に必要と感じさせる工夫もしていかなければならないと感じている。授業の満足度について) とても満足できたが50%だが、回答率が低いので実質はそれ以下ということである。授業内容に工夫が必要である。
コンテンツデザインⅡ	後期	上坂 恒章	この授業は、メディアアートを作成するプログラミングの基本を学び、最終的に自分で制作することを目指したものである。また、「主体的な学び」「問題解決能力」を身に付ける為に、課題の提示も一歩考えることに踏み込んだものとしているため、戸惑う場合も出てくるが、3年生後期であり、考え、解決を付ける経験を養うものである。内容が難しい面もあり、教科書を指定して、事前、事後学習を想定している。結果として、設問10で「この授業は、全体的にどの程度満足していますか」で「満足できた」以上が100%であった。但し、コメントに基づき、次年度は、改善していきたい。
技法・材料研究Ⅱ	後期	安田 祐造	それぞれの人が自主的で積極的に制作に取り組んでくださり、個性を發揮した作品が生まれたように感じます。これからもその姿勢を大切にしてほしいです。
彫刻Ⅱ	後期	梅田 力	今年度は、課題設定として、りんごの模刻の他に、抽象表現も出来るように改訂した。その点について、良かったとの自由記述があり、昨年度からの課題が改善できた。木彫の道具の新調が必要であり、次年度はより良い学習環境を整えることを課題としたい。
工芸実習Ⅳ(テキスタイル)	後期	三上 いずみ	この科目は4つの分野からひとつを選んで履修するため履修者数が少なくなります。少人数のため教材を自由に使える利点はありますが、意見や視点が限られることでディスカッションが深まらず、自分の学びを多面的に評価する機会が減ってしまいます。履修者増やすための改善策を考えます。
工芸実習Ⅳ(金工)	後期	梅田 力	履修者が2名と少なかったため、じっくりと学生の進捗、興味関心に合わせて、課題を設定できた。来年度はこれまでの素材(真鍮・銅)に加え、鉄の加工も出来るようにし、素材の体験できる幅を増やしさらに授業を充実させていく。
漫画Ⅳ	後期	五十嵐・鴨	受講人数が多いことにより発生する問題についての意見をいくつか貰いました。特に学生一人一人に対する対応時間の差がついてしまう点は今後対策を考え、全員に満遍なく、個人の能力に沿った指導ができるよう改善していきます。
建築設計演習Ⅱ	後期	日野 桂子	「建築設計演習Ⅱ」は提出される課題の出来不出来の差が大きい課題になります。全体のレベルを上げていきたいところです。63人の学生と一人一人との対話をして、学生の作りたい作品と一緒に取り組みたいと思いますが、対話の時間が足りないことが多いところや、図面を書くことが苦痛の学生が多くいるのも改善していく点と思います。建築を創る楽しさをもう少し伝えて、空間認識を高められる授業としたいです。
ユニバーサルデザイン演習	後期	安藤 淳一	ユニバーサルデザイン演習は学外授業(TOTOショールーム)やFW、施設実測の他、図面・模型制作など多岐にわたる学習に取り組んでいます。今後も学修成果が上がる内容は継続し、問題のある部分(授業ペースや時間配分等)の修正に取り組み、より充実した授業に改善していきます。
アクションプログラムⅠ	後期	伊藤裕・向井	授業の進め方が適切でないと感じたり、授業内容をあまり理解できなかった、あまり満足できなかったと感じる学生がいました。この授業は学内コンペ制作という内容であり、通常の授業とは進め方が異なるために戸惑う学生がいたのだと思います。もっと学生ひとり一人と内容を話し合う時間を設けていきたいと思っています。
一級対策製図Ⅱ	後期	小笠原 健	履修者は、一級建築士特別養成コースの5名でしたので、少人数でもあり、一人一人細やかな個人指導が出来ました。アンケート結果も履修者全員から高評価を受けており、今年の一級建築士試験にぜひとも合格してもらいたいと期待しています。特に二次試験(製図試験)は、合格率26.6%の難関試験ですが、それに対応できるだけのスキルは養成できたと思料します。
住宅設計演習Ⅱ	後期	君 興治	教員(建築士として)と学生が建築的志向を凝らしながら会話をすることが最も大切だと考えています。その時の会話を何度も反復できるように書面でも学生提出しています。今後は学生と教員の会話の数を増やすために、教員からの問題定義を増やしていきたいと思っています。
CAD演習Ⅰ	後期	佐藤善・伊藤裕	多くの学生が授業内容に満足したと回答してくれましたが、一部の学生からは満足できなかったという回答がありました。課題を提示して後に机間巡視して質問に答えていましたが、よく分からなくても質問しない学生もいるという前提で学生と接していきたいと思っています。
アクションプログラムⅣ	後期	伊藤 裕康	学内コンペに取り組む学生を対象として実施しましたが、履修者は全員意欲的に学内コンペに取り組み、作品提出・プレゼン発表していました。今後もこのスタイルを継続していきたいと思っています。
建築設計演習Ⅳ	後期	向井 正伸	アンケート回答ありがとうございます。不確実性の高い社会において、一人ひとりが理念を持って建築を創造することができるよう、新たな課題に取り組みましたが、私自身も発見の多い授業となりました。来年はさらに評価基準を明確にするなど改善を図りたいと思います。引き続きよろしくお願いたします。

CAD演習Ⅲ	後期	佐藤善・伊藤裕	教員は学生の理解度を確認しながら授業を進めていたかという項目で、そう感じていない学生が10%程度いました。CADソフトが重くてPCの応答が遅いため、一人ひとりに多くの時間がかかり、学生全員に十分な対応ができなかったと思います。全員に対応できるように改善していきます。
アクションプログラムⅧ	後期	佐藤 善太郎	この授業は自分の成果を自分で判断する科目です。中身は資格の勉強であったり、卒業研究の調査であったりしますが、履修者はほぼ全員が目標を達成できたと思います。
建築学特講Ⅰ	後期	柿沼 博彦	授業内容のアンケート結果を拝見させて頂きました。結果を真摯に受け止め、引き続き努力をしてまいります。又（設問11）に回答頂いておりますが、本特講は①「イノベーションとデザイン」のテーマを通して、知識や考え方を理解していただくこと、②更にそれと関連して今後の学生生活、その後の社会人としての心構えなどを醸成頂くことも目的としております。このことにつきましてご理解頂き幸いです。中国の古典「礼記」に“教学半”と云う言葉があります。平たく言えば、教えることは自分にとっても半分は勉強になるということです。一緒に頑張りましょう！
柔道	後期	三嶋 康嗣	柔道の特性を理解させ、安全管理のコントロールを最重要と位置づけして講義を展開した。その上で柔道の基本技術である礼法、受身、さらに対人技能へ発展させていった。履修者はスポーツ学生が大半であるため、実技として充実していた。今後も教職科目として学生が卒業後指導現場にて授業により還元できる内容にしていきたい。
球技Ⅲ(バドミントン)	後期	戸佐 晃一	受講者数が少なかったため授業の展開が難しく、単調になった部分もあったが、比較的良好な評価をしてくれた。今回の反省点を今後の授業の中で改善していきたいと思う。
ダンス	後期	是枝 亮	ダンスの授業お疲れ様でした。「フォークダンス」「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」の三つのカテゴリーそれぞれの特徴の違いを音楽に合わせて動くことによって理解できたかと思えます。自身が教える立場になった際には、今回学んだ経験を是非活用してください。
イラスト漫画概論Ⅱ	後期	竹内 美帆	おおむね、「とても適切だった」「充分適切だった」の回答が得られ、学生にとって満足できる授業が提供できたのではないかと感じます。ただ、「授業の理解度」と「満足度」で低い評価をしている学生が4%だったこと、コメントでグループワークが苦手だという意見があったことを踏まえ、次年度の授業では、グループワークを頻繁に行う授業であるということと、しっかりとシラバスに明記し、オリエンテーションでも周知していきたい。多様性のあるマンガやアニメーションを取り上げることができ、他者と意見を交わし合うことができた点は、次年度にも生かしていきたいです。
写真表現Ⅱ	後期	林 春生	話し方、時間配分、図の表現、教材、興味、理解度に関して、適切ではないとありました。全て4%の学生が感じておりました。次期ではそれぞれ丁寧に、対応していきます。理解度と満足度不足が11%で、反省しております。一人一人確認をし、補習が必要な場合は行います。
絵画	後期	西田 陽二	半年という短い時間であったが学生とのコミュニケーションを取る時間もあり、それぞれの個性に合わせた作品を完成させることが出来た。
社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	後期	塩崎 大輔	全体的に完全に満足と言えるような結果とはならなかったため、次回以降はより学生の興味・関心を引く教材等の導入を検討する。
社会科・公民科教育法Ⅱ	後期	松下 守邦	履修学生が少数であったため、公民科教科の特性、複数の教科書の内容比較、大学テキスト、および北海道・札幌市の教育課程編成資料の確認をおこなうことができました。学生の主体的な参加により、指導案を完成させうえて模擬授業を実施することができました。学生の皆さんが指導案作成過程で示された相談内容などを踏まえ、次年度の授業設計をさらに進めてまいります。
美術科教育法Ⅱ	後期	竹内 美帆	全ての項目で、「充分適切だった」以上の回答が得られて、学生にとって満足できる授業が提供できたのではないかと感じます。受講者が6名と過去の同科目を実施した時の倍の人数だったため、時間外の時間に指導案についての打ち合わせを設けたが、それにより、きちんと理解度が高めることができよかったです。模擬授業も6名分それぞれが体験することができ、充実した授業を実施することができました。
工芸科教育法Ⅱ	後期	三上 いずみ	この授業では、模擬授業を組み立てることを重視し、教材研究にも力を入れました。実際の教育現場で役立つ対応力を磨きつつ、授業の目的をしっかりと考えてもらい、生徒に何を教えたのか、何を伝えたいのか、何を感じてもらいたいのかを意識して進めました。今後も、テクニックだけでなく「何を教えるべきか」を深く学べる授業を目指し、改善に努めていきます。
保健体育科教育法Ⅱ	後期	森 靖明	中・高等学校における科目「保健」の授業実践能力を高めるため、学習指導案の書き方や単元の目標、本時の目標、授業の内容、評価規準や評価方法の整合性が必要であることについて十分時間をかけて解説します。また、ICTを効果的に活用した展開などについても理解が深められるよう、指導内容や指導方法の改善に取り組みます。
保健体育科教育法Ⅲ	後期	高井 雅一	学習指導要領を中心に授業を進め、学生の理解に努めた。グループごとに種目の特徴を押さえながら、指導案を作成し確認し合うことができました。さらに、学生に考えて実践できる力をつける授業展開を模索していきたい。
保健体育科教育法Ⅳ	後期	高井 雅一	体育の指導案作成と模擬授業を展開し、授業者の反省と参加した学生からのアドバイスの時間を設けて、次の授業に活かした。ビデオ機器など活用した授業展開や授業風景を確認できるようにしていきたい。
経済学 (S)	4 Q	河野 善文	試験にできる重要項目として授業のなかで解説したものはかならず補講課題のなかにもふくめるようにしています。自習用の課題をこれからも用意していきたいと思えます。ぜひもうしててください。
経済学 (M・D・A)	4 Q	小林 大州介	沢山のコメント、ありがとうございます。昨年、一昨年と以外に皆おとなしく聞いてくれたので、これまでは特に座席指定の必要を感じなかったのですが、あの感じでは確かにまずいですね。次回からは厳しく座席指定にしようと思えます。また、講義のノートポイントについては少し改善の余地がありそうです。ご意見、ありがとうございます。
英語入門Ⅱ (M)	4 Q	石田 暁子	コツコツと努力を続けていた学生は良い結果につながっていました。今後も英語が好きでいてほしいと願っています。一方、授業内容や進捗に満足していなかった学生が一部いたことがわかり、残念な気持ちです。学生一人一人に、できるだけ目を配る必要性を痛感しています。

英語入門Ⅱ (S)	4 Q	横田 肇	少人数のクラスであったが、いずれの回答項目も高評価であり、こちらも満足のいく結果であった。特に受講生の理解度と満足度、興味関心の項目が高いのが良かったと思う。(逆にこれらの項目が低いといろいろ考えさせられるが)この科目については、今後も現行の方法を踏襲しつつ、さらなる工夫に努めたい。
英語入門Ⅱ (D・A)	4 Q	宮嶋 達也	コメントありませんでしたが、とても良い評価をいただきありがとうございます。みなさんが授業を通してわかりやすさを感じてくれたことが、最大の励みです。今後も英語の学びを楽しんで、更なるスキルアップを目指してください。
ドイツ語入門Ⅱ (M)	4 Q	河田 一郎	「授業中、私語がうるさくて、集中できない」とのご指摘がありました。直接注意をせずに、気づいてもらえるよう心掛けていますが、私の力量不足で大変申し訳なく思っています。人数の多いクラスでも、静かに聞いてくれるクラスもあります。それが普通だと思いますが、私語もゲームをすることも忘れて、内容の面白さに聞き入ってもらえるような授業を目指したいと思います。
ドイツ語入門Ⅱ (S・D・A)	4 Q	河田 一郎	「丁寧な授業」、「ゆっくりとしたテンポ」、「何度も繰り返す」が私の授業のやり方です。ご賛同いただける学生さんも多く、とても嬉しく思っています。また1Qで封印した覚え方も「復活してほしかった」との声もあり、励まされました。十人十色、受け取り形はさまざまですが、今後なるべく多くの学生さんたちに楽しんでもらえるような授業を目指したいと思います。
中国語入門Ⅱ	4 Q	孫 暢	語学授業においては、一方的な講義形式ではなく、実践的な会話を中心とすることが一般的である。しかしながら、大人数での実施は困難を伴い、円滑な進行為が妨げられることが多い。その結果、教育に対する熱意の低下を招く要因となった。
外国語コミュニケーション (M)	4 Q	岡島 徳昭	学生の英語力に差があるので授業の組み立てに工夫が必要。より基礎力が身につくよう授業を進めたい。
外国語コミュニケーション (S)	4 Q	信濃 吉彦	概ね好評評価だったようですが、一部の学生から不適切な表現があった旨指摘がありましたので今後気を付けます。
外国語コミュニケーション (D・A)	4 Q	宮嶋 達也	授業の最後に行っていた、確認テストが安心感を与えたこと、そして、最後まで継続してサポートできたことが、やる気の向上に繋がったという評価をいただき、大変嬉しく思います。授業の進め方についても、学生一人ひとりの理解度に注意を払い、調整し続けながら進めることができたことが評価され、学生が授業を通してわかりやすさを感じてくれたことが、最大の励みです。今後も英語の学びを楽しんで、更なるスキルアップを目指してください。
日本語Ⅱ	4 Q	佐藤 恵利	「満足できた」という回答を多く得られたので、今後も学生に対してわかりやすく、達成感のある授業づくりを心掛けていきたいと思えます。詰問8「この授業の内容は理解できましたか」の回答に「あまりできなかった」とあったのですが、内容が理解できなかったのか、言語が理解できなかったのか気になるところです。どちらにせよ理解できているかどうかの確認を怠らず、授業を進めていきたいと思えます。
日本語Ⅳ	4 Q	高橋 真弥	アンケートに回答いただきありがとうございます。今後の授業に反映させていただきます。
社会保障Ⅱ	4 Q	小早川 俊哉	授業の性格上、制度理解が中心となるため覚えることが多い科目です。国家試験のみならず、社会生活においても重要な制度ですので、時代の流れ・背景から各制度を理解するよう努めてください。
社会学と社会システム	4 Q	松下 守邦	社会学用語を定義づけしたうえで、オリジナルの例をあげて説明する文章作業を成績評価材料としました。本年度は、授業8回と15回目の計2回のほかに、練習課題を14回におきました。テキストと授業資料の資料の違いをふまえて説明する、精度の高いレポートが複数みられました。次年度は、さらに社会学理論の内容理解がすすむよう教材を吟味していきます。
社会福祉調査の基礎	4 Q	杉本 大輔	プロントのミスプリが多かったこと、結果的にはシラパス通りに進まなかったことなど、反省点が多い講義内容だった。猛省します。
西洋美術史Ⅱ	4 Q	竹内 美帆	設問5以外の全ての項目で、「適切だった」「満足できた」以上の意見が100%となり、受講者にとって満足のできる授業が提供できたのではないかと感じています。授業のレジュメやパワーポイントは、引き続きTeamsなどを活用して、随時参照できるように準備していきます。「オンライン授業の連絡が遅い」というコメントがありましたが、今回オンライン授業を実施した際は、インフルとコロナで休む学生が多く、試験的にオンラインを併用したハイブリッド型授業を実施してみたという経緯でした。実施の基準や出席をカウントする基準が明確でなく混乱が生じたので1度きりで終わりましたが、今後実施する際は、きちんと基準を明確にし、周知するように徹底したいと思います。
建築システム論	4 Q	向井 正伸	アンケート回答ありがとうございます。今後建築の専門性を高めていくにあたり最低限理解してほしいことを中心に講義を進め、時にそれに関連した内容も話をしましたが、引き続き講義内容のアップデートを図っていきます。
建築構造力学Ⅱ	4 Q	長森 正	授業改善アンケートのご協力ありがとうございました。今年度は授業ノートテイクを必修として必ず実施することを決めてみました。ノートチェックも実施しましたが、良く記述されていたと思えます。理解度、満足度ともに90%となり良い評価を得ました。しかし自由記述で後方席での黒板文字が小さいとの指摘があり、改善します。今後も理解しやすい授業をこころがけて取組ます。
スポーツマネジメント論	4 Q	信濃 吉彦	概ね好評評価だったので安心しました！ノートの量に関しては改善要求されても減らさないよ！と告知したせいか全く記述がありませんでしたが、自分が学習している内容を目で確認しながら覚えるという点でこれに勝るものはないと思えます。
スポーツマネジメント論 (SP)	4 Q	信濃 吉彦	概ね好評評価だったので安心しました。一部の学生から試験中に駄目だするのは如何なものかという意見が複数寄せられましたので今後改めます。
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	4 Q	上原 正希	地域という科目の性質上、なかなかマイクロ実践じゃない分、イメージがしづらいかもしれないが、おおむね理解をしていただいていたのが良かったようなので、引き続き行っていき、評価の多少低い部分については、実践方法を変更しようと思えます。コメントおよび評価ありがとうございます。
ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅲ	4 Q	西野 克俊	満足度として、とても満足できた45%、十分満足できた36%、満足できた18%、一定程度満足していただけた内容になっていると感じています。現場実践に対する意見もいただいたため、引き続き内容に織り込むことを意識しさらなる向上を図りたいと思えます。

精神保健福祉制度論	4 Q	大島 康雄	精神障害の歴史を理解してほしいため、すこし時間の配分が難しいところがありました。教員としての想いもあり、皆様の協力でそれなりの形になったと思います。
地誌	4 Q	塩崎 大輔	全体的に満足度は高いが、理解が難しいという意見もみられたので、来年度以降はよりわかりやすい説明を工夫する。
肢体不自由教育Ⅱ	4 Q	千葉 聡美	この講義で模擬授業を初体験になる学生が多いので、指導案の書き方や授業の仕方に戸惑う姿を毎年見てきた。講義で教えたことを指導案に落とし込むことは難しいと判断し、主要なところを埋めた指導案のテンプレートを作成し、最初に示範授業を見せたところ、全員苦労しながらも指導案を作成し、それに沿った授業を実施することができた。事前にもっと話し合いをという意見もあるが、授業は人を見て、自分でやって初めて分かることが多い。完璧な指導案を作成することが目的ではなく、体験したからこそ得た学びを大切にしてほしい。
社会心理学	4 Q	松下 守邦	本年度の授業は、文献講読を演習形式スタイルにて実施しました。テキスト分担報告は、各学生が2回、教員が4回にて進行ができました。使用した専門文献は、複雑な文章構造を持つものでしたが、著者による例示が物語的に展開されていました。この特徴により、読み手それぞれが多様な解釈を行うことができ、学習効果を高めると考えました。学生の分担報告レポートには、独創的な見解が見られました。これらの貴重な意見は、次年度の授業設計の授業改善に利用していきたいと考えています。
障害児保育Ⅱ	4 Q	坂上 俊樹	学生の回答からは、授業をよく理解して参加してくれたように受け止められますが、回答率が5割ほどであることが気になりました。アンケートの実施時期や方法を含めて検討が必要だと思います。今後も、授業展開を含めて、さらなる研鑽を深めたいと思います。
知的障害教育Ⅱ	4 Q	藤根 収	概ね高い評価をいただきありがとうございます。今後もわかりやすい授業に努めてまいりたいと考えています。
国際法	4 Q	細川 光法	授業がためになったのなら、とてもうれしく思います。これからもタイムリーな内容を変えながら、学生の皆さんに国際法を身近なものに感じてもらえるよう誠心誠意努力いたします。
造形表現Ⅰ	4 Q	浩而 勉諭	アンケートに回答していただけて有り難く思っています。本年度の学生たちは大変に熱心でした。真っ直ぐにこちらを見つめて話を聞く姿勢、そして準備をしっかりして授業に臨む姿勢、感心させられました。授業は教師と学生との協働であると思っています。今年度もアンケートの評価が高かったのは、この学生たちあつてのものであると思っています。今後も誠実に授業に臨む決意です。一期一会の出逢いに感謝致します。
造形表現Ⅱ	4 Q	浩而 勉諭	アンケートに回答していただけて有り難く思っています。本年度の学生たちは造形表現Ⅰを過去に受講してくれていた学生たちです。教えた基本の技法を自分のものとし、それをもとにさらなる工夫を凝らす姿勢は素晴らしいと感じました。作業は大変丁寧でした。満足いくまで何度も作り直す学生の姿には胸が熱くなりました。アンケートの評価が高かったのは、この学生たちあつてのものであると思っています。今後も誠実に授業に臨む決意です。
子どもの健康と安全	4 Q	宮崎 剛司	次回からは、履修人数に応じて適切な教室へ変更し、学生にとって最適な学習環境を整えます。各項目の結果を踏まえ、適宜学生とコミュニケーションを図りながら、授業の改善に努めてまいります。
基礎デザインⅡ	4 Q	林 春生	教材、興味、理解度、満足度において、2%の学生が不満に感じていました。次期からは授業内容を改善して、全ての学生が満足できるように工夫致します。
デザイン概論Ⅱ(1年)	4 Q	北嶋 洋一	シラバスに関して) 授業の進行は概ねシラバスどおりだったが、後半の日程を一部修正した。テストの回数を減らし、その分をレポート等提出物で補ったが習得度の確認が遅れたのが反省点である。アンケートの回答でも、この点に対する評価が低かったため、次年度のシラバス作成時の留意点とした。話し方・進め方について) 多数を相手にする授業だったので、細かな配慮はできず、ほぼ一方通行の授業が進行していたと思う。これについて今後は人数に合わせた、効果的で、より良い授業の方法を今後確立していかなければならない。話し方が早すぎるという指摘を受けているので、間の取り方に配慮が必要である。板書やPowerPoint・配布資料について) 授業はPowerPointのみで進行、配布資料は授業で用いたスライドのPDF版のみだったが、果たしてそれで良かったのかどうかは検討中である。理解度の確認について) 試験結果以外では学生の理解度を確認する術がなかったのが実情である。1と比較して試験の平均点は向上していたが、内容の理解度が決して満足できるものではなかったため、今後は内容のスリム化も考えたい。授業の満足度について) とても満足できたとの回答が41%。まだまだ改善の余地ありということである。初年度なので試行錯誤の中での授業進行だったが、次年度の授業内容では完成した内容に近づけていきたい。
デザイン概論Ⅱ(2年)	4 Q	北嶋 洋一	シラバスに関して) 授業の進行は概ねシラバスどおりだったが、後半の日程を一部修正した。テストの回数を減らし、その分をレポート等提出物で補ったが習得度の確認が遅れたのが反省点である。アンケートの回答でも、この点に対する評価が低かったため、次年度のシラバス作成時の留意点とした。話し方・進め方について) 多数を相手にする授業だったので、細かな配慮はできず、ほぼ一方通行の授業が進行していたと思う。これについて今後は人数に合わせた、効果的で、より良い授業の方法を今後確立していかなければならない。話し方が早すぎるという指摘を受けているので、間の取り方に配慮が必要である。板書やPowerPoint・配布資料について) 授業はPowerPointのみで進行、配布資料は授業で用いたスライドのPDF版のみだったが、果たしてそれで良かったのかどうかは検討中である。理解度の確認について) 試験結果以外では学生の理解度を確認する術がなかったのが実情である。試験の問題文の長さの問題があったようである。この点は修正が必要である。1と比較して試験の平均点は向上していたが、内容の理解度が決して満足できるものではなかったため、今後は内容のスリム化も考えたい。授業の満足度について) とても満足できたとの回答が49%。まだまだ改善の余地ありということである。初年度なので試行錯誤の中での授業進行だったが、次年度の授業内容では完成した内容に近づけていきたい。
WEBデザインⅡ	4 Q	上坂 恒章	この授業は、新しい内容に取り組んだものであり、3年後期なので「主体的な学び」「問題解決能力」の向上を目指したものである。豊富な内容であるため、教科書を指定しているが、教科書なしで受講する学生も見られ、当然、理解が難しい。また、Webデザイナーとしての実践的な内容であるため、「考える」力も必要となる。設問2.3.4.5.6.7.9.10で「適切だった」「そう思う」が100%であり、特に設問10の「この授業は全体的にどの程度満足しているか」で、「満足できた」以上が100%であった。概ね、授業の目標を達成できた。

アニメーションⅡ	4 Q	梅田 真紀	すべての設問で肯定的な回答を得られました。履修生のみなさんが、アニメーションの制作プロセスについてより理解を深め、アウトプットに反映できるよう、授業の細部を改善していきたいと思ひます。
CG技法研究Ⅱ	4 Q	北嶋 洋一	シラバスに関して) 授業の進行は概ねシラバスどおりだったが、実技の合間に行う概論のタイミングを固定化することができずにいたのが、課題の進行に影響を与えてしまったようである。話し方・進め方について) 実験的な内容が多かったため、今後に組み立ても含めて課題になる。板書やPowerPoint・配布資料について) 授業はPowerPointのみで進行、配布資料は授業で用いたスライドのPDF版のみだったが、果たしてそれで良かったのかどうかは検討中である。理解度の確認について) 課題提出以外では学生の理解度を確認する術がなかったのが実情である。この点を改善していかなければならない。授業の満足度について) とても満足できたとの回答が36%。改善の余地ありということである。提出指示に不手際が多かったことは反省点である。初年度なので試行錯誤の中での授業進行だったが、次年度の授業内容では完成した内容に近づけていきたい。
キャラクターデザインⅡ	4 Q	三上 いずみ	今期の授業は少人数だったこともあり、制作についてのコミュニケーションを取りやすかったとのコメントをいただきました。学生同士でお互いの制作を見ながら学び、工夫しながらモチベーションを保ちつつ取り組む姿が見られました。また、時間が厳しい中でも、自分で時間配分を考えて作品を完成させたことは、非常に有意義だったと思ひます。今後は、もっと効率よく制作を進められるように、作業工程の見直しや時間の使い方についてのアドバイスを充実させていきたいと思ひます。皆さんが自分のペースで余裕を持って作品作りに取り組める環境を整えていきます。
造形論Ⅱ	4 Q	松岡 龍介	この科目は、将来、美術やデザインの専門家として社会で活躍しようとする学生が、在学中に最低限身につけてほしい、知識や、見方、感じ方について毎回、テーマに沿ったレポートを制作することによって、書き言葉を含めた言葉として各自が“まとめ”る力を養うことを目的としています。したがって、内容は、広汎なテーマを設定します。また、本科目を受講するにあたり最低限の美術に関する用語の知識も必要になると思ひます。
保育の計画と評価	4 Q	吉江 幸子	保育士養成課程の必修科目ですが保育以外の学生も履修していただいたことにより、複数の側面から講義内容を組むことができました。また、外部の当該利用者を招くことで計画と実践・評価を実体験できたことが学びやすさにつながったと思ひます。アンケート評価も、「とても適切・適切」の高評価で終えることができました、履修した学生の皆さんのご協力に感謝しております。
保育内容演習Ⅱ(人間関係)	4 Q	松下 守邦	本科目のテキストは主に子どもの日常生活を概説しており、保育所保育指針解説は日常語彙を中心に構成されています。そのため、専門用語や学修語彙は一定の範囲に限られています。しかし、保育課程の学生の皆さんには、効果的な保育実践を行うために、より高度な観察力と表現力が求められています。次年度に向けて、授業教材を工夫し、将来の保育者としての皆さんの観察力を育成することに注力します。
施工管理技士演習Ⅰ	4 Q	小笠原 健	この講座は、今年度より、1級建築施工管理技士補の受験条件の緩和により、大学在学中に受験できるように改正となったことから、昨年度より開講した講座になります。3年次前期からの建築施工・建築生産の専門講座を履修済みの学生を対象に国家試験対策として実施しています。また、今までのインプット型講義とは異なり、今まで学んできたことをアウトプット型講義として自己学習を基本とし、あくまで、国家資格試験に合格することが最終目標としているため、毎週の小テストに対する予習と復習を実施していく講義内容となっています。講義終了後のアンケートでは、履修者の多くからは、高評価を得ている講座となっています。今年の合格を目指し、引き続き、4年次の「施工管理技士演習Ⅱ」で試験対策を確立していきたいと思ひます。
一級建築士演習Ⅳ	4 Q	赤木 良子	学生同士での教え合い、解説を学生自身が行うという方法が、良い感触でした。取り入れられるところではそのような方法も取り入れていきたいと思ひます。
建築法規Ⅳ	4 Q	佐藤 善太郎	学生の理解度に対応して授業を進めたため、少しく遅延し最後はかけあしになってしまった。その分、学生の理解度は深まったと感じる。相変わらず「字が汚い」という意見もあるが気を付けます。
職業指導 (A)	4 Q	横山 哲也	話し方に気を付ける
アクション・ログラムⅥ	4 Q	小笠原 健	この講座は、本来であれば、学生自身が自ら企業へ赴き、会社説明会やインターンシップなどで業界や採用についての情報を自ら就職活動にて得るものでありますが、他大学では見られない本学の特徴ともいえる積極的な就活サポートの一環として、各道内外の優良企業16社を学外講師として招き、建設業界について講義を実施してもらった講座になります。講座開始当初は、講義姿勢や無断欠席などの一部の無礼な学生も見られましたが、最終的には、就活を行う成人社会人としてのマナーをある程度身につけたうえで、就活に対する考え方ならびに建設業界の実態や各企業の待遇および採用方法などを学べたものと思ひます。特に建設業界では就活が早期に開始され、遅くとも4年次のGW前には、ほぼ内定がでていることから、この講座の存在は、学生にとって有益かつ、本学の就職率のアップに貢献しているものと思ひたいと思ひます。
経済学概論	4 Q	河野 善文	大人数の授業で後ろがみえづらくなってしまい申し訳ありません。希望者には前の座席を一部あけてありますので、ぜひ申し出てください。また、試験にでる重点箇所については、今後も繰り返し、授業中に確認・練習していきたいと思ひます。
トレーニング科学Ⅱ	4 Q	篠原 諒介	授業改善アンケートに回答いただきありがとうございます。今年度も学生からの嬉しいコメントが多く感謝しております。ですが、「理解度」に関するアンケートでは、100%の回答が得られなかったため、今後も改善し、良い授業を展開できるよう努力して参ります。
財務会計論	4 Q	川津 大樹	他の授業を含めて内容を詰め込み過ぎという意見がありますが、これ以上減らせません。スカスカなものでなければ幸いです。
基礎統計演習 (M)	4 Q	河野 善文	終盤の回の授業でマイクが不調なときあり、ご迷惑をおかけしました。今後も修繕ができない場合は教室の変更を考えたいと思ひます。
基礎統計演習 (S)	4 Q	杉本 大輔	コメントが一軒もないとはインパクトの無い講義の証拠。猛省します。

基礎統計演習 (D・A)	4 Q	伊藤 裕康	統計学の専門用語の意味がわからないままだったとのコメントをもらいました。本科目の履修条件として統計学入門を履修済みであることが望ましいとシラバスにも書きましたが、本科目では統計学入門で学んだ記述統計を基礎として推測統計を学んでいます。これからできるだけ復習しながら進むようにしますが、できれば統計学入門を履修済みであることが望ましいと思います。
北海道経済論	4 Q	小林 大州介	皆さん、集中して聞いてくれてありがとうございます。期末試験も上々の出来で、非常に頼もしく思います。次年度もますます頑張ってください。第4Q,お疲れ様でした!
会社法	4 Q	青山 浩之	会社法は月曜日1講目と火曜日4講目の科目で、履修者97名、平均出席者72.8名(平均出席率75%【前年71%】)という状況で、回答者が62名と回答率63.9%であった。出席不良で採点対象外の学生が11%と出席不良が目立った。シラバスの説明に関する評価では、90%が適切と回答した。授業スキルの評価は、「配布資料、教科書などの教材は適切でしたか」「理解度を確認しながら授業を進めましたか」「授業の内容は理解できましたか」では好評価を受け、授業の全体印象に関する評価では、好評価を得ました。「難易度は高い教科でしたが学んでいて楽しい授業でした」と評価されました。オリエンテーションでシラバスの説明を徹底し、これから興味や関心を持てるように工夫していきたい。
スポーツ医学	4 Q	黒川 泰任	スポーツ・運動に関連した「医学的背景の確立」は、実は大変新しい問題です。わかりやすく言うと、運動や競技に関しては、本人の「がんばり」に任されてきた時代が極めて長く、医学的=科学的立場からスポーツ選手を援助する世になったのはつい最近のことなのです。当初は、これを実施した限られた集団=いくつかの「国家」の「選手」がきわめて優秀な成績を上げました。現在では運動を科学しない人・チームやグループは、いわゆる歴史=過去の遺物=無意味=役立たずと認識されているにもかかわらず、本国では未だこの域を脱せずにいます。皆さんに求められることは、運動を科学の観点から眺め、勉強・学習し、自分と自分の指導対象者を、共に「科学的に」高めていくことです。運動の背景と仕組みを理解し、何事にも疑問を抱き、毎日の学習の必要性・重要性に気づいてください。人生は「学び」の「絶え間ない」連続です。皆さんの成功と幸せを期待・確信いたします。
管理会計論	4 Q	鈴木 重政	経営学に対する意識が高いクラスでした。よく理解し、発展的な質問などもありました。また、年末年始に実在する企業の経営改善計画を作成するレポートを課しましたが、提出を義務づけていないにも関わらず全員が提出し、内容も高レベルなものでした。充実した講義で私の大学教員を終えることができました。
スポーツと栄養	4 Q	湯浅 頼佳	概ね良い評価を頂きましたが「配布資料等が適切ではなかった。」という回答が1名ありました。欠席した方へ配布する点でタイムロスがあったことかと思われるのでこの点にも注意して参ります。
eビジネス論	4 Q	阿部 裕樹	授業資料をTeamsに掲載することで学習の利便性が向上したようで何よりです。また、講義後の質問対応が役立ったとのことで、引き続き学生の皆さんが疑問を解消しやすい環境を整えていきます。今後も視覚的に分かりやすい資料作成を心がけ、理解を深め、関心を持っていただける授業を目指し、さらに工夫を重ねてまいります。
コミュニティ心理学	4 Q	吉澤 英里	アンケートの回答をしていただき、ありがとうございます。貴重なご意見に感謝します。本講義ではグループワークによるプレゼンテーションを実施しました。私では十分にコントロールできない(学生さんの諸事情による)変更にも柔軟に対応していただき感謝しています。今後はさらにスムーズな進行が出来るように工夫をしたいと思います。
倫理学概論	4 Q	尾崎 有紀	「倫理学概論」では、規範倫理学の主要な理論である功利主義と義務論の対比を軸に、具体的な問題に即しながら倫理学の基礎概念を紹介していくことによって、論理的な問題について主体的に考えていくための素養を学生に提供できるよう、工夫して講義を行った。具体的には、学生が講義の主題に関心をもてるよう、学生にとってできるだけ身近な題材を扱うように配慮した。また、講義中に適宜学生との質疑応答を行うことによって、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。これらの工夫は、アンケート結果を通じて、概ね成功したと考えている。一方、一部の学生に対しては、必ずしも関心があった内容を提供することができなかったことも事実である。講義内容の選定をより工夫することによって、今後の講義に繋げていきたい。
教育行政学 (M・D・A)	4 Q	木村 浩紀	授業の趣旨を概ね理解していただき、多くの方に興味をもって取り組んでいただいたようです。チャットでの意見・感想も多くの方に参加していただきました。ディスカッションや時間配分などについては、さらに工夫をしていきますが、教師を目指して授業に向き合う皆さんの姿勢を感じ取れたのは、指導者としてうれしく思いました。
教育行政学 (S)	4 Q	木村 浩紀	授業の趣旨を概ね理解していただき、多くの方に興味をもって取り組んでいただいたようです。チャットでの意見・感想も多くの方に参加していただきました。教育と政治等との関係について理解を深め、様々な視野で考えられる方も見られました。教師を目指して授業に向き合う姿勢を感じ取れたのは、指導者としてうれしく思いました。
教育課程論 (1年)	4 Q	西崎 毅	「授業満足度」は、「満足した」以上が97%、「熱意」は、「そう思う」以上が100%、「教材の適切さ」は、「適切だった」以上が97%でした。「授業が1番分かりやすかったです。」「わかりやすく、授業のやり方も自分たちで考えてやるのでとても勉強になるし、いろいろな人の意見も聞けるからとてもいい授業でした。」「ICTがうまく活用されていてとても身になる授業でした。」「教職課程で全然知らなかったこともこの授業で学ぶことができたので、これからの教職課程の授業や活動で活かせるようにしていきたいと思いました。」「一つ一つのことに対して詳しく説明してくれてとても理解しやすかったです。」「授業内でグループワークがあり、生徒の自主性や主体性を養わせるとても良い授業だと感じた。」等の評価を励みに一層の改善に努めます。
道徳教育の指導法	4 Q	佐藤 雅一	入院などを授業期間中に挟んでしまい学生のみなさんにはご迷惑をおかけしました。そのためシラバス通りに授業進行が出来なかったことを申し訳なく感じております。また僕の言語障害についてはPC、AI等を活用し、より授業趣旨を伝わり易く心がけます。次年度以降、現場の教員を派遣してもらいより学校教育の場との乖離を減らします。

総合的な学習の時間の指導法	4 Q	西崎 毅	「授業満足度」は、「満足した」以上が100%、「熱意」は、「そう思う」以上が100%、「教材の適切さ」は、「適切だった」以上が100%でした。「ICTを積極的に活用し、学生が主体的に授業に参加できる体制が整っていた。知識の定着はもちろん、それを生かす場面が多く、頭の中に残りやすいものであった。他の授業でも積極的にこの方法を取り入れるべきであると思う。」「とても参考になる現代に適した授業だと思いました。教職の授業は全部このような授業にしてほしいと思います。」等の評価を励みに一層の改善に努めます。
介護等体験指導	4 Q	堀川・木村	おおむね良好であった。今後も履修生がより良く理解し、次の年度に体験する介護等体験への不安が軽減するよう説明内容等を工夫していく。